

サッカー日本代表目指して

後藤 拓斗さん（大町）



サッカー15歳以下日本代表の上三川中学校3年生後藤拓斗さんにお話を伺いました。年齢別日本代表の一員として4月3日から11日までイタリアに遠征しました。現在後藤さんは、ヴェルディ小山市に所属しており、週5回夕方2時間の練習に通っているとのこと。

今年1月に開催された下野杯中大会では攻撃の要として活躍し、チームは見事優勝。3月には年齢別の日本代表の選考会でも100人が参加していましたが、実力が認められ日本代表に選出されました。

選出されたときの感想は「信じられなかったです。」と答えてくれました。サッカーをやっている辛いこと、ありますかと尋ねると「自分の中で思い通りのプレーができないときが

今月の輝ける星

辛いです。しかし、原因を考えて練習で修復していくようにしています。」と練習の大切さを話してくれました。得意なプレーは、「ボールをキープするのが好きですが、周りの選手を生かしながら、パスを出してアシストする方がもっと好きです。」と笑顔で答えてくれました。

後藤さんは「今回のイタリア遠征の代表に選出されましたが、甘いところを見せずに、2009年FIFA17歳以下ワールドカップの代表入りを目指して、初心に戻って練習に励んでいきたいです。」と力強く語ってくれました。

将来の目標は当然「A日本代表（年齢制限無し）入り」とのことですが、日の丸を背負ってワールドカップでプレーする後藤さんの姿を見られる日が、近いかも知れません。



かみのかわ 四季の野鳥

ムナグロ（胸黒）チドリ科 **キアシシギ**（黄脚鴨）シギ科

「ピュイピュイピュイ」春の夜ふけ、鳴き交わしながら空を渡っていくシギやチドリの声を聞くことがあります。遠く南の国から繁殖地のシベリアなどに向かう数千キロの旅の途中で、日本列島をシギ・チドリの群が北上していきます。そして、ちょうどそのころ日本各地で田植えの始まる水田が、羽を休め、餌を探る格好の場所となります。

今回は、数多くのシギ・チドリの中でも、渡りの季節に町内で見ることのできるキアシシギとムナグロです。

写真のムナグロはチドリの仲間です。体長25cm。ムクドリくらい大きさです。長い足で田んぼの中をチョコチョコと歩いては立ち止まって小動物や昆虫類を食べます。白と黒と金色のまだら模様の羽色は、繁殖期になると名前のとおり胸から顔にかけて黒色に変わります。なお、幼鳥の羽色は変わらず褐色のままです。

キアシシギは灰色の羽色と黄褐色の脚が特徴の中型のスマートなシギで、体長25cm。長いクチバシを使って泥の中にいるミズなどを探します。シギ・チドリの群は春と初秋に見ることができですが、町内では鬼怒川沿いの水田地帯などに多く飛来するようです。



ムナグロ



キアシシギ